

最先端科学 中学生学ぶ

茨城で研修開始

奥州

奥州市中学
生科学体験研

修(市教委主催)は4日、2泊3日の日程で始まった。希望した市内全10校の2年生31人が、茨城県つくば市の筑波宇宙センターや高エネルギー加速器研究機構(KEK)で、施設見学や実験を通じ最先端の科学技術に触れている。同日早

朝に出発式を市役所で、の佐々木楓さんが「研修先
い、生徒を代表して前沢中」で礼儀正しくし、一つでも



科学体験研修の出発式に臨む奥州市の生徒たち

多くの学びを奥州市に持ち帰る」と見送りの保護者らに決意を示した。田面木茂樹市教育長は「大いに成長してきてほしい」と激励した。

研修は、ノーベル物理学賞を受賞した小柴昌俊さんが2003年に旧水沢市で講演したことをきっかけに始まり、今年が14回目。KEKでは、同施設の研究者小野正明さん(68)が奥州市水沢区出身の講義も受講する。